

Newsletter

2

April 1, 2008

北海道大学大学院文学研究科・教育学研究院・経済学研究科
カリフォルニア大学サンタバーバラ校進化心理学センター

CONTENTS

2 第1回国際シンポジウム
"Evolution and the
Sociality of Mind"

6 その他の活動報告

8 2007年度の業績一覧

心の社会性と進化

本号では、当グローバルCOE プログラムが2008年2月23日および24日に、カリフォルニア大学サンタバーバラ校で開催した国際シンポジウム "Evolution and the Sociality of Mind" の内容を中心に紹介いたします。私たちのプログラムでは、本拠点と方向性を共有する海外主要研究拠点との一層の連携を目指しています。特に、カリフォルニア大学サンタバーバラ校（UCSB）進化心理学センターとの共同教育体制の構築は重要な柱であり、これを通じて、優秀な若手人材が早いキャリア段階で世界の第一線の研究場面に参加することができるようになります。同シンポジウムでは、北海道大学・カリフォルニア大学サンタバーバラ校、両校の研究者が、社会心理学や、文化心理学、進化心理学、神経経済学、人類学など多様な観点から「心の社会性と進化」に関する研究発表を行いました。発表後の質疑応答やポスターセッションでは、アプローチの壁を越えた議論が活発に行われ、今後の共同研究・教育体制を進めるための基礎が築かれました。



第1回 国際シンポジウム "Evolution and the Sociality of Mind"

●日時 2008年2月23日、24日 午前9時～午後8時

●場所 University Center (UCEN), Flying A Studio (カリフォルニア大学サンタバーバラ校)

2月23日(土)

"Neuroeconomics of Intertemporal and Probabilistic Choice"



発表 1 高橋泰城

神経経済学は、生物学的なアプローチを用いて人間の選好・意思決定を研究する学問である。そのトピックの1つが、時間割引率の不整合性(時間経過による選好の逆転現象)である。双曲割引の神経調整、中毒と双曲割引、双曲割引の精神物理学、リスクの下での意思決定と双曲割引などに関するこれまでの知見を紹介し、それらの経済政策や進化理論に対するインプリケーションを示した。

"A Cue-Theoretic Approach to Cooperation"



発表 2 Andy Delton and Max Krasnow

人々の協力行動は、血縁、直接互酬性、評判維持に基づいていると言われているが、しかしこうした要因のみでは一回限りの実験的な状況における協力行動を説明することはできない。この点を説明するために、近年、文化的・遺伝的な集団選択によるモデルが提案されてきている。本研究では、一回限りの状況と、繰り返しの状況を区別するシグナルが確率的に表れるような場合を想定し、エージェントはたとえ一回限りの状況であるとわかっていても、直接互酬性に基づき協力することをシミュレーションにより示した。

"Towards Constructing a Computational and Adaptationist Approach to Human Motivation: The Case of Kin Detection, Family-directed Altruism, and Incest Avoidance"



発表 3 John Tooby and Leda Cosmides

動機づけに関して、これまで動因低減説や条件付け理論、選好・目標追求モデルなどさまざまなアプローチが採用されてきたが、その現象を広範に説明するためには、より包括的で計量的、明示的な理論へと根本的に変えていくことが必要である。本報告

では、動機づけには、さまざまな内的な規制変数(IRVs, internal regulatory variables)を計算するために進化したいくつかのメカニズムが関わっていることを示した。例えば、IRVの一つに、個人の厚生水準と他者の厚生水準に同時に影響を与えるような行動を規制する要素として、厚生トレードオフ率(WTR, welfare trade-off ratio)がある。また、脳が遺伝的に関係のある人を見分ける際に利用する、親族指標(KI, kinship index)もその一つの例である。一連のIRVsとそれを計算するメカニズムは、実際の状況や潜在的な状況での意味や価値の判断、目標設定、競合する価値間のトレードオフについて評価するような時に活用される。そしてそのような計算メカニズムは、感情の適応論的なデザイン(怒りや罪の意識、恥、感謝などの計算可能な要素)と共に進化してきた。本報告では、一例として、血縁関係の検知とその動機づけに関する構造について説明した。

"The Computational Structure of Human Anger"



発表 4 Aaron Sell

怒りについて、これまで進化的なアプローチによる理論的な説明は十分にされてきていた。しかし、怒りは、厚生トレードオフ率(WTR, welfare trade-off ratio、他者が自分の厚生水準を自身のものと比較してどれほど評価しているかという程度)を調整する適応的な機能を有していると解釈することは可能である。本報告では、この観点に基づく、費用負担に由来する怒りや、侮辱への反応としての怒り、怒りによる口論のデザイン、怒りの表情、怒りの声、暴力的な攻撃と謝罪・正当化の原理などの特徴に対し、説明を加えた。

"Punishing Free-riders: Direct and Indirect Promotion of Cooperation"



発表 5 品田瑞穂

罰によって協力行動が促進することは知られているが、その効果は、直接的なものと間接的なものに分けられる。直接的な

効果とは、協力と非協力のインセンティブを変えて、協力を選ぶことが合理的であるようにするものであるのに対し、間接的な効果は、条件付き協力者に対し他のメンバーも協力するだろうという期待を持たせるように、協力に必要な条件を与えるものである。本報告では、2種類の条件下で行った一回限りのn人囚人のジレンマゲームについて、罰の間接効果が直接効果を補完することを実証した。さらに、ゲーム参加者による自発的な罰でも、実験実施者による外生的な罰でも、直接・間接効果は有効であることを示した。

"Recalibrational Emotions and Welfare Tradeoff Ratios"

発表 6 Daniel Sznycer



費用便益のトレードオフを適応的に最適化することで、厚生トレードオフ率 (WTR) は選択されてきた。本研究で扱うのは、特定の感情とは、ある出来事に対して予測可能なやり方でWTRを再測定するように構成されてきているという理論である。具体的には、ターゲットに特異的なWTRは、怒りが喚起される状況では下方に、罪や感謝が喚起される状況では上方に調整されると考えられる。そしてアルゼンチンの大学生に対し、仮想状況を用いて、便益をもたらすような動機と費用を生じるような動機を測定したところ、怒り、罪、感謝におけるそのような再測定理論を支持する結果が得られた。

2月24日(日)

"Ancestral Conditions Make Modern Day Predictions: Sex, Race, Coalitions & Accent"

発表 1 Dave Pietraszewski



言語習得の知見によれば、音のレパートリーは地域特有であり、思春期ごろにおおまかに形成されることを示している。したがって、共有されるアクセントは同じ言語コミュニティで育ったことを示す特徴となる。そしてその規則性を保ったまま、言語コミュニティ間での移動や協調が広がつていき、さらには共通の社会的起源を追跡していくことに何らかの利益があつたとすれば、それに見合った形で人間の認知構造は形成されてきたと考えられる。実際、集団が連携し合うとき、それによって人種に関するキューは軽視される一方、性別やアクセントは集団の特徴をなすものとして、依然としてそれに

"To eat or not to be eaten?": Collective Risk-monitoring in Human Groups"

発表 7 龍田達也



動物が捕食リスクに直面しながら餌探しをしなければならないように、人間にとっても、食糧獲得とリスク監視という2つのタスクの間で、時間・心理資源をうまく配分することはきわめて重要な適応課題である。本研究では、人間を含む群居性の動物では、ゲーム的な相互依存構造により、資源配分のトレードオフをめぐる意思決定は複雑なものになり、集団には、行動戦略に関する混合均衡が生じるだろうと予測した。混合均衡に至ると、グループメンバーの一部がリスク監視活動に従事する一方、他のメンバーはそれらのメンバーのリスク監視行動にただ乗りをして、自らは食糧獲得のみに専念することになる。行動実験の結果、低いリスクのもとで食糧獲得を行う集団の行動パターンは、この予測を支持するものだった。しかしリスク水準が高くなるにつれ、他者の行動に同調する「群れ行動」がグループ内で支配的になり、混合均衡の発生は見られなかつた。さらに、リスク監視行動を多く行う被験者と、ただ乗りに傾きがちな被験者の間には、他者の情動表出に関する共感性の程度に差異があることが見いだされた。これらの知見をもとに、感情がリスク下の注意配分行動に及ぼす影響について、エラーマネジメントの観点から議論した。

注意が払われやすいことがわかった。

"Adaptive Psychological Mechanisms to Various Types of Intergroup Threats"

発表 2 横田晋大



内集団ひいきを支える心理メカニズムは男女により異なることが、先行研究から示唆されている。男性の内集団ひいきは、身体の安全や資源への脅威に対応するための心理メカニズムから生じる一方で、女性の内集団ひいきは、外集団との接触から内集団に見知らぬ病気が持ち込まれる脅威に対応するための心理メカニズムから生じる。この仮説を検証するため、まず、事前に外集団からの脅威をキューを操作し、最小条件集団状況での内集団ひいきを検討すると、男性参加者でのみ内集団ひい

きが観察された。次に、病気感染の脅威のキーを操作し、国を単位とした内集団ひいきが生じるか否かを検討したところ、予測と反し、性差は見られなかつた。発表では、この実験の潜在的な問題について議論された。

"Cooperation Among Hunter-Gatherers"

発表 3 Mike Gurven



狩猟採集経済では、広範な社会関係とグループメンバーとの間での暗黙的社会的な契約が必要とされる。この点を踏まえて、発表では、小規模な社会における食糧の分け合いと協力行動について、進化的な側面から説明を試み、生産と分配を別々の現象と見た場合には正しく理解されないのか、その理由について議論した。さらに、社会規範が潜在的な利害の不一致を解決する上で重要な役割を果たしていることや、分け合いを決定する背景にある社会的な心理プロセスについても言及された。

"On the Default Assumption of Monitoring and Sanctioning Behind Japanese Collectivism: A View from the Social Institutional Analysis and Error Management Theory"

発表 4 竹村幸祐



山岸らの先行研究は、日本社会では集団レベルでの監視や懲罰のシステム(GMS)が一般的であり、GMSの存在が確実でない時でもその存在を想定する方が安全であるため、日本人はデフォルト戦略として集団内メンバーと協力することを示唆している。本研究では、日本と米国において公共財ゲーム実験を実施し、GMSはないとはつきり認識できる状況とそれが曖昧な状況における協力行動について注目した。結果は、内集団への帰属意識が強い日本人において、GMSなし条件下ではそうでない時よりも有意に協力行動が低下したのに対し、帰属意識の弱い日本人やアメリカ人においては、条件操作に関わらず協力の程度は変化しなかつた。



"Health and Fertility Correlates of Male Social Status among the Tsimane of Bolivia"

発表 5 Chris VonRueden



個人間の協力に関する評判の差異は、近年の集団行動の進化モデルにおいて重要であるが、ただしこれまで、懲罰、監視などにかかる費用や、集団プロジェクトにより期待されるさまざまな利益については、あまり考慮されてきていない。本研究では、ボリビアのTsimaneの狩猟採集社会において、対個人・対集団関係の両方において、どのような特質が社会的な影響力と関連しているか調査し、その結果を報告した。そして身体的なサイズ、性格特徴、技能、資産、社会的な支援に加えて、生産力や健康状態が社会的な影響力を持つことが示唆された。

"How Do We Treat Givers to Free-Riders in Indirect Reciprocity Settings? An Experimental Study to Examine Strategies in Indirect Reciprocity Settings"

発表 6 真島理恵



近年の理論的研究では、間接互恵性の成立させる鍵として、一次情報(他者の以前の行動)のみならず、二次情報(他者の以前の行動がどのような人に対するものであったのか)を用いた選別の利他行動が提唱されている。本研究では、間接互恵性状況における選別の行動パターンを測定する実験を行った。その結果参加者は、一次情報のみならず、二次情報までも利用する選別の行動パターン(提供者への提供者に対してのみ、提供する)を示した。この結果は、間接互恵性の成立させる鍵が、フリーライダーを排除するだけでなく、フリーライダーを助ける提供者も区別することにあることを明らかにしている。

"The "Openness" of a Society Determines the Relationship between Self-Esteem and Subjective Well-Being: A View from the Socio-Ecological Perspective"

発表 7 結城雅樹



これまでの研究により、自尊心が主観的幸福感に与える影響は、一般的に東アジアよりも北米で高いことが示されている。そしてこの差は、これまで文化的自己観の差異によって説明されてきた。しかしながら本研究では、関係流動性という、必要に応じて新しい関係を形成する機会の多さを反映する社会生態学的な要因の観点から、この差異をより論理的に説明すること

を試みた。具体的には、米国のような関係流動性の高い社会では、個人間の開かれた市場があり、人々はより良い関係を形成する相手を探すことができる。この競争的な市場では、自尊心あるいはその人の市場価値は、望ましい関係を作ることができるかのインディケーターとして機能し、それ故にそれは主観的幸福感と強く結びついているだろう。一方、東アジアのような関係流動性の低い社会では、関係が固定的で安定的なため、自身の

市場価値はそのように機能しにくい。そしてさまざまな方法を組み合わせた複数の研究より、関係流動性の高い社会では、自尊心と主観的幸福感との間に強い相関があるという結果が示された。



講 演



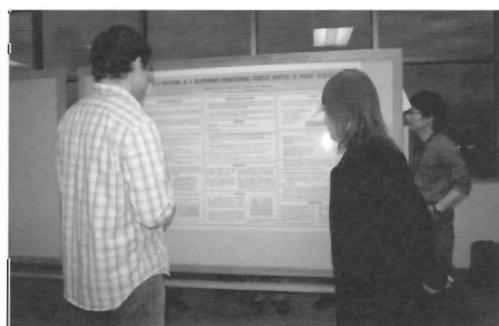
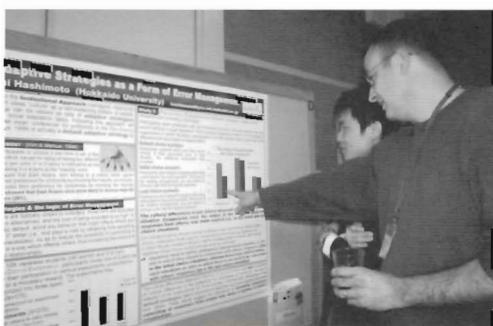
"In-group Favoring Behavior as a Reputation Device"

山岸 俊男

一般交換とは、大規模な協力行動の維持を可能にする、人間に特有の方法である。一般交換システムでは、各個人が一方的に資源をシステム内の誰かに与え、受益者から直接的に報酬を得ることはない。さらに、与えたものだけが他者から資源を受け取ることができる。このシステムでは、条件付きの利他主義者となり、与えた者に対してだけ与えるという戦略が唯一実行可能である。したがって、個人の評判は、一般交換を成立し維持させるために決定的な役割を果たす。個人は、他のメンバーから資源を得るために、「責任のある」メンバーであるという評判を持たなければならない。本報告では、一連の最小集団実験の結果に基づき、グループメンバーを好意的に扱うことが、その人のグループ内での評判を高める戦略となることを示した。

ポスター発表

- 石井敬子 "Outgroup Homogeneity Effect in Perception: An Examination in Japan and the US"
- 高篠仁奈 "Effect of Altruism and Trust on Quasi-Credit: Field Experiments in Central Java"
- 谷田林士 "Cooperation in the one-shot Prisoner's Dilemma Game: Allocation of Attention to the Payoff Matrix"
- 高橋知里 "Trust and Reciprocity in the Trust Game: A "Joint-cultural" Experiment in Japan, China, and Taiwan"
- 三船恒裕 "Is Male More Competitive Towards the Outgroup than Female? The Sex Difference of Ingroup Bias"
- 石橋伸恵 "Behavioral Assortment in Group Tasks: How do People React to Social-frequency Information in a Group Task with a Marginally-diminishing Return Curve?"
- 犬飼佳吾 "Decisions Under Ambiguity: Effects of Sign and Magnitude"
- 高岸治人 "The Role of Intentions in Third-party Punishment"
- 佐藤剛介 "The "Openness" of a Society Determines the Relationship between Self-esteem and Subjective Well-being: A Cross-societal Comparison"
- Joanna Schug "Self-disclosure as a Relationship-strengthening Strategy Adaptive to Mobile Societies"
- 堀田結季 "Inequity Enhancing Rejection of Unfair Offers: Reasons for Rejection in the Ultimatum Game"
- 橋本博文 "Default Adaptive Strategies as a Form of Error Management"
- Brandy N. Burkett, Leda Cosmides, John Tooby, & Christina Larson "Jealousy, Friendship and the Banker's Paradox"
- Eric Schniter "Culture Across the Lifespan: the Distribution and Ontogeny of Essential Tsimane' Cultural Skills and Abilities"
- William D. Lassek, & Steven J.C. Gaulin "The Effect of the Type of Dietary Fatty Acids on Body Mass and Cognition"
- Tess Robertson "Emotions Coordinate Responses to Different Exclusions: Evidence for Distinct Exclusion-response Mechanisms"
- Carolyn Hodges "Dominance and Attractiveness Depend on Different Parameters in Men's Voices: The Relative Roles of Mean Pitch and Pitch Variation"
- Aaron W. Lukaszewski, Zachary L. Simmons, & James R. Roney "Rapid Endocrine Responses of Young Men to Social Interactions with Young Women"
- Elsa Ermer "Relative Status Regulates Risky Decision-making about Resources in Men: Evidence for the Co-evolution of Motivation and Cognition"
- Annie E. Wertz & Tamsin C. German "Core Principles in the Explanation of Behavior: Actions Speak Louder than Words"



活動報告

第4回 国際ワークショップ

北海道大学社会科学実験研究センターとの共催

自己参照効果(Self-reference Effect: SRE)と文化プライミングを組み合わせ、西欧と中国の両文化経験をしていると考えられる香港人を調査した実験について話題提供していただいた。fMRIの結果から、中国文化プライミングでは、自分が他者と社会的に関連(connected)し、西洋文化プライミングでは、自分が他者と分化(differentiated)された可能性が示された。



日 時：2007年12月6日（木）

場 所：北海道大学人文・社会科学総合教育研究棟 W408

発表者：Sik Hung Ng (City University of Hong Kong)

参加者：山岸俊男（北海道大学）、亀田達也（北海道大学）

結城雅樹（北海道大学）、高橋伸幸（北海道大学）

大沼 進（北海道大学）、石井敬子（北海道大学）

他、約15名

第5回 国際ワークショップ

特定領域研究「実験社会科学—実験が切り開く21世紀の社会科学」、北海道大学社会科学実験研究センターとの共催



Oona Cha

私(I)と私たち(We)を韓国人にプライミングした4つの異なる課題(①ストループ課題②位置記憶課題③文字認識課題④フレームライン課題)では、「私」をプライムされた実験参加者群は、文脈独立的課題のパフォーマンスが向上したのに対して、「私たち」をプライミングされた群は文脈依存的課題のパフォーマンスが向上していた。



小宮あすか

米国と日本における2つの比較文化研究を通じて、認知的情感としての「後悔」の認知過程の普遍性および文化特異性を検証したところ、米国人も日本人も、後悔を接近一回避の軸を使って同様に評価したもの、とりわけ個人状況において、米国人はそれが接近に関連している際に後悔をより強く感じたのに対し、日本人では接近と回避のいずれに対しても同様に後悔を感じたという文化差が示された。



増田 貴彦

言語習得の研究の歴史・背景、そしてどのような議論がなされてきたかを紹介した。言語習得は生物学的に本当に先天的なものなのか(e.g. Pinker, 1994)、もしくは後天的に学習されるものなのかについて(e.g. Tomasello, 1993)、非常に活発な議論が展開された。また、今後の言語習得に関する研究の方向性についても議論された。

日 時：2007年12月26日（水）

場 所：北海道大学人文・社会科学総合教育研究棟 W308

発表者：増田 貴彦 (University of Alberta, Canada),

Oona Cha (Chung-Ang University, Korea),

小宮あすか (京都大学)

参加者：山岸俊男（北海道大学）、亀田達也（北海道大学）

結城雅樹（北海道大学）、高橋伸幸（北海道大学）

石井敬子（北海道大学）、他、約16名

第1回 一般公開ワークショップ

大学院改革プログラム「人文科学における実証的研究者の育成拠点」、北海道大学社会科学実験研究センターとの共催



非定常な時間選好(双曲割引)・期待効用理論の修正モデルの神経生物学的・進化理論的基盤に関する先行研究の紹介に加え、経済学においては、①時間選好率の定常性や②期待効用理論に関する修正理論が提案されている一方、合理的習慣形成理論(合理的中毒理論も含む)の実験的・行動科学的研究が行われていないことが指摘された。

日 時：2007年12月20日（木）

場 所：北海道大学 人文・社会科学総合教育研究棟 W408

発表者：高橋 泰城(東京大学・21COE「心とことば」ポスドク研究員)

参加者：山岸俊男（北海道大学）、亀田達也（北海道大学）

結城雅樹（北海道大学）、高橋伸幸（北海道大学）

大沼 進（北海道大学）他 27名（計32名）

活動報告

第2回 一般公開ワークショップ

特定領域研究「実験社会科学—実験が切り開く21世紀の社会科学」、北海道大学社会科学実験研究センターとの共催



齋藤 寿倫

共感の一側面として、表情模倣という現象が知られている。表情模倣とは、ある個体が表出した表情に、素早く、自動的・無意識的に他の個体の表情が一致する現象を指す。この表情模倣現象が他者の感情状態を理解するために役立っているという議論があるが、これを実証的に示した研究はない。本研究ではこれを調べるために、対象者の感情状態の理解を促す条件と促さない条件を設け、対象者の表情をどの程度模倣するか測定する実験を行った。その結果、他者感情の理解を促す条件でのみ表情模倣が生起し、仮説は支持された。



佐藤 弥

表情と視線は、どちらも表出者の一時的状態を表現し、日常のコミュニケーションでは有機的に組み合わされている。これらの情報を統合的に解説処理する心理・神経メカニズムを検討するため、心理実験およびfMRI実験を行った。心理実験の結果、基本情動の表情に対する情動認識および情動喚起は、視線方向の影響を受け、そのバタンは表情の情動カテゴリによって異なることが示された。fMRI実験の結果、怒りや幸福の表情の処理において、扁桃体などいくつかの脳部位の活動が、視線方向の影響を受けることが示された。これらは、表情と視線を統合的に処理する認知神経メカニズムを示唆する。

日 時：2007年12月20日（木） 場 所：北海道大学 人文・社会科学総合教育研究棟 W308

発表者：佐藤弥（京都大学）、魚野翔太（京都大学）、間山ことみ（北海道大学）、齋藤寿倫（北海道大学）

参加者：亀田達也（北海道大学）、片山順一（北海道大学）、石原孝二（北海道大学）、結城雅樹（北海道大学）

高橋伸幸（北海道大学）他22名（計27名）



間山ことみ

洋の東西においてはコミュニケーション様式に差異があることが知られている。本研究では、ある表情（幸せ・悲しみ）が中性的な表情に変化していく場合の、最初に示していた感情が消えたと判断する速さについて日米で比較実験を行い、表情変化の認識の仕方において文化差が存在するかを検討した。その結果、日本人は、悲しみ感情の判断に対して、非常に慎重であることが示された。この傾向は、他者との情緒的なつながりを重視する日本文化で生きていく上で必要な対人的スキルの反映として解釈されるだろう。



魚野 翔太

他者の視線方向や表情の素早い処理は円滑なコミュニケーションのために重要である。他者の視線は知覚者の自動的な注意シフトを引き起こすことが示されている。中性表情の視線と比較して情動的表情の視線はその対象の情報を多く含んでいる。そのため、情動的表情の視線による注意効果はより大きくなると考えられる。今回の発表では、静的および動的情動的表情が視線による注意シフトに与える影響、および対人相互作用の障害を持つアスペルガー障害での実験の途中経過を報告した。

第3回 一般公開ワークショップ

特定領域研究「実験社会科学—実験が切り開く21世紀の社会科学」との共催



辻本昌弘先生（写真左）は、「地域社会の事例による社会的交換の検討」というタイトルで、アルゼンチン移民と沖縄における講集団、そして講集団とは対極の互恵関係を維持している北部ケニア・トゥルカナでの聞き取り調査について発表した。アルゼンチン移民と沖縄における講

集団では、面識関係による参加者選抜を行っているものの、講集団を形成する人々が置かれている状況の性質上、貧しい人々ほど掛け金を支払うことができず、フ

リーライダーとなってしまっている。しかし、講集団はおおむねこうしたフリーライダーには寛容であることが聞き取り調査からわかった。若野友一郎先生（写真右）は、「社会学習と同調伝達は共進化するか～Henrich & Boyd(1998)を再検討する～」というタイトルで、ある周期で環境が変動する場合における、生得的行動・社会学習・個体学習の3つの戦略の適応度に関する数理解析を紹介された。解析の結果からは、1) 社会学習と生得的行動は母集団に共存し得ないこと、2) 社会学習はあくまでも個体学習を基盤としてその上に成立することなどが明らかにされた。そして Henrich & Boyd(1998)が行った同種の数理解析の問題点を指摘し、彼らが示したモデルの修正版を示した。

日 時：2008年3月9日（日） 場 所：東京工業大学 国際キャンパス（附属科学技術高等学校）キャンパスイノベーションセンター

発表者：辻本昌弘（東北大学）、若野友一郎（明治大学）

参加者：亀田達也（北海道大学）、中丸麻由子（東京工業大学）、神信人（淑徳大学）、高橋伸幸（北海道大学）

石井敬子（北海道大学）

2007年度の業績一覧

洋書

- Brewer, M. B., & Yuki, M. (2007). Culture and social identity. In S. Kitayama & D. Cohen (Eds.), *Handbook of cultural psychology* (pp. 307-322). New York: Guilford.
- Kameda, T., Takezawa, M., Ohtsubo, Y., & Hastie, R. (in press). Are our minds fundamentally egalitarian? Adaptive bases of different socio-cultural models about distributive justice. In S. J. M. Schaller, Heine, A. Norenzayan, T. Yamagishi, & T. Kameda (Eds.), *Evolution, Culture, and the Human Mind*. Psychology Press.
- Mashima, R., & Takahashi, N. (2007). The emergence of generalized exchange by indirect reciprocity. In A. Biel, D. Eek, T. Garling & M. Gustafsson (Eds.), *New issues and paradigms in research on social dilemmas* (pp. 156-176). New York: Springer.
- Radford, M. H. B., Ohnuma, S., & Yamagishi, T. (Eds.). (2007). *Cultural And Ecological Foundations of the Mind*. Sapporo: Hokkaido University Press.
- Shinada, M., & Yamagishi, T. (2007). Bringing Back Leviathan into Social Dilemmas. In A. Biel, et al. (Ed.), *New issues and paradigms in social dilemma research* (pp. 93-123). New York: Springer.
- Takahashi, T., Makino, T., Ohmura, Y., & Fukui, H. (in press). Employing delay and probability discounting frameworks for a neuroeconomic understanding of gambling behavior. In *Psychology of Gambling*. Carbondale: Nova Publishing.
- Takahashi, T., Oono, H., Ohmura, Y., Kitamura, N., & Radford, M. H. B. (in press). Relationship between personality scales of impulsiveness and discounting of monetary gains and losses in smokers and never smokers. In *Men and Addiction*. Carbondale: Nova Publishing.
- Takemura, K., Yuki, M., Kashima, E. S., & Halloran, M. (2008). A cross-cultural comparison of behaviors and independent/interdependent self-views. In A. B. I. Bernardo, M. C. Gastardo-Conaco & M. E. C. D. Liwag (Eds.), *The self, relationships, and subjective well-being in Asia: Psychological, social, and cultural perspectives* (pp. 105-121). Seoul, Korea: Kyoyook-Kwahak-Sa.
- Tamura, R., Ishibashi, N., & Kameda, T. (2007). Foraging and risk-monitoring in human groups: How do we solve tradeoffs between the two survival tasks? In M. H. B. Radford, S. Ohnuma & T. Yamagishi (Ed.), *Cultural and ecological foundations of the mind* (pp. 145-168). Sapporo: Hokkaido University Press.
- Yamagishi, T. (2007). The social exchange heuristic: A psychological mechanism that makes a system of generalized exchange self-sustaining. In M. H. B. Radford, S. Ohnuma & T. Yamagishi (Eds.), *Cultural and ecological foundation of the mind* (pp. 11-37). Sapporo: Hokkaido University Press.
- Yamagishi, T., & Suzuki, N. (in press). An Institutional Approach to Culture. In M. Schaller, S. Heine, A. Norenzayan, T. Yamagishi & T. Kameda (Eds.), *Evolution, culture and the human mind*: Lawrence Erlbaum.

学術論文・国際会議

- Ando, K., Ohnuma, S., & Chang, E. (2007). Comparing Normative Influences as Determinants of Environmentally-Conscious Behavior in the U.S. and Japan. *Asian Journal of Social Psychology*, 10, 171-178.
- Blobaum, A., Matthies, E., Ando, K., & Ohnuma, S. (in press). The impact of moral norms on pro-environmental mobility behavior in Japan and Germany. *Journal of Environmental Psychology*.
- Gray, H. M., Ambady, N., Ishii, K., & Kitayama, S. (submitted). When misery loves company: Effects of sad mood on affiliation goals and attention to relational cues.
- Hizen, Y., & Kiyono, K. (2007). Strategic Election Campaign --Single-Seat District System vs. Proportional-Representation System--: Comparative Institution and Political-Economy: Theoretical, Experimental and Empirical Analysis, 282-302.
- Igarashi, T., Kashima, Y., Kashima, E. S., Farsides, T., Kim, U., Strack, F., Werth, L., & Yuki, M. (2008). Culture, trust and social networks. *Asian Journal of Social Psychology*, 11, 88-101.
- Inukai, K., & Takahashi, T. (in press). Decision under ambiguity: Effects of sign and magnitude. *International Journal of Neuroscience*.
- Irimoto, T. (2007). Anthropological Themes Today Viewed from Northern Studies. *Northern Studies Association Bulletin*, 1-3.
- Ishihara, K. (2007). Neuroethics in cultural and institutional settings: Toward a comparative study. 1st International Workshop of Neuroethics in Japan: Dialog on Brain, Society, and Ethics Conference Proceedings, 33-41.
- Ishihara, K. (2007). Reductionism in the synthetic approach in cognitive science and Phenomenology. Rethinking Dreyfus' critique of AI. *Phenomenology 2005, Volume I: Selected Essays from Asia*, 211-228.
- Ishihara, K. (in press). Technological Artifacts and Intentionality?Toward a Phenomenology of Technology. *Identity and Alterity: Phenomenology and Cultural Traditions*, 33-41.
- Ishii, K. (2007). Do differences in general trust explain cultural differences in dispositionism? *Japanese Psychological Research*, 49, 282-287.
- Ishii, K., & Kurzban, R. (in press). Public goods games in Japan: Cultural and individual differences in reciprocity. *Human Nature*.
- Ishii, K., Tsukasaki, T., & Kitayama, S. (submitted). Culture and visual perception: Does perceptual inference depend on culture?
- Itagaki, S., & Katayama, J. (2008). Self-relevant criteria determine the evaluation of outcomes induced by others. *NeuroReport*, 19, 383-387.
- Kameda, T., & Tamura, R. (2007). "To eat or not to be eaten?" Collective risk-monitoring in groups. *Journal of Experimental Social Psychology*, 43, 168-179.
- Kitayama, J., & Sawaki, R. (2008). Deviant Processing Is Modulated by Stimulus Context: Evidence from P3a and P3b. *Brain Topography*, 20, 158.
- Kichiji, N., & Nishibe, M. (2007). Power Law Distributions in two Community Currencies. *Topological Aspects of Critical Systems and Networks*, 59-64.
- Kichiji, N., & Nishibe, M. (2008). Network Analyses of the Circulation Flow of Community Currency. *Evolutionary and Institutional Economic Review*, 4, 267-300.
- Kimura, M. (2007). Traditional Rites of Passage and Their Changes among the Peoples in Siberia. *Northern Studies Association Bulletin*, 15-17.
- Kimura, M., Katayama, J., & Murohashi, H. (2008). Attention switching function of memory-comparison-based change detection system in the visual modality. *International Journal of Psychophysiology*, 67, 101-113.
- Kimura, M., Katayama, J., & Murohashi, H. (in press). Involvement of memory-comparison-based change detection in visual distraction. *Psychophysiology*.
- Kimura, M., Katayama, J., & Murohashi, H. (in press). Underlying mechanisms of P3a-task-difficulty effect. *Psychophysiology*.
- Kimura, M., Katayama, J., & Murohashi, H. (2008). Effects of feature and spatial attention on visual change detection. *Neuroreport*, 19, 389-392.
- Kuwabara, K., Willer, R., Macy, M., Mashima, R., Terai, S., & Yamagishi, T. (2007). Culture, Identity, and Structure in Social Exchange: A Web-based Trust Experiment in the United States and Japan. *Social Psychology Quarterly*, 70, 461-479.
- Masuda, T., Ellsworth, P., Mesquita, B., Leu, J., Tanida, S., & van de Veerdonk, E. (2008). Placing the face in context: Cultural differences in the perception of facial emotion. *Journal of Personality and Social Psychology*, 94, 365-381.
- Masuda, Y. (in press). Norm formations and ethics in transition economies-The styles of capital accumulation through the diverse privatization processes-. *Applied Ethics: Perspectives from Asia and Beyond*.
- Nakayama, Y., Takahashi, T., Wakabayashi, A., Oono, H., & Radford, M. H. B. (2007). Sex differences in the relationship between cortisol levels and the Empathy and Systemizing Quotients in humans. *NeuroEndocrinology Letters*, 28, 445-448.
- Ohnuma, S., Ishibashi, Y., Suzuki, Y., & Chikamoto, K. (2007). Do self-sanctioning and outsider intervention instill trust in the information disclosure process? *Journal of Risk Research*, 10, 883-898.
- Rubin, D. C., Schrauf, R. W., Gulgoz, S., & Naka, M. (2007). Cross-cultural variability of component processes in autobiographical remembering: Japan, Turkey, and the United States. *Memory*, 15, 536-547.
- Sawaki, R., & Katayama, J. (in press). Difficulty of discrimination modulates attentional capture by regulating attentional focus. *Journal of Cognitive Neuroscience*.
- Sawaki, R., & Katayama, J. (2007). Difficulty of discrimination modulates attentional capture for deviant information. *Psychophysiology*, 44, 374-382.
- Sawaki, R., & Katayama, J. (in press). P3a correlates with attentional capture induced by stimulus deviance. *Clinical Neurophysiology*.
- Shinada, M., & Yamagishi, T. (2007). Punishing free-riders: Direct and indirect promotion of cooperation. *Evolution and Human Behavior*, 28, 330-339.
- Takahashi, C., Yamagishi, T., Liu, J., Wang, F., Lin, Y., & Yu, S. (in press). The intercultural trust paradigm: Studying joint cultural interaction and social exchange in real time over the internet. *International Journal of Intercultural Relations*.
- Takahashi, T. (2008). A comparison between Tsallis' statistics-based and generalized quasi-hyperbolic discount models in humans. *Physica A: Statistical Mechanics and Its Applications*, 387, 551-556.
- Takahashi, T. (2007). A comparison of intertemporal choices for oneself versus someone else based on Tsallis' statistics. *Physica A: Statistical Mechanics and Its Applications*, 385, 637-644.
- Takahashi, T. (2007). Economic decision-making by smokers. *NeuroEndocrinology Letters*, 28, 659-661.
- Takahashi, T. (2007). Hyperbolic discounting may be reduced to electrical coupling in dopaminergic neural circuits. *Medical Hypothesis*, 69, 195-198.
- Takahashi, T. (2007). Non-reciprocal altruism may be attributable to hyperbolicity in social discounting function. *Medical Hypothesis*, 68, 184-187.
- Takahashi, T. (2007). A probabilistic choice model based on Tsallis' statistics. *Physica A: Statistical Mechanics and Its Applications*, 386, 335-338.
- Takahashi, T. (2008). Psychophysics of time perception and intertemporal choice models. *Physica A: Statistical Mechanics and Its Applications*, 387, 2066-2074.
- Takahashi, T. (in press). Theoretical frameworks for neuroeconomics of intertemporal choice. *Neuropsychoeconomics*.
- Takahashi, T., Furukawa, A., Miyakawa, T., Maesato, H., & Higuchi, S. (2007). Two-month stability of hyperbolic discount rates for delayed monetary gains in abstinent inpatient alcoholics. *NeuroEndocrinology Letters*, 28, 131-136.
- Takahashi, T., Ikeda, K., Fukushima, H., & Hasegawa, T. (2007). Salivary alpha-amylase levels and hyperbolic discounting in male humans. *NeuroEndocrinology Letters*, 28, 17-20.
- Takahashi, T., Ikeda, K., & Hasegawa, T. (2007). A hyperbolic decay of subjective probability of obtaining delayed rewards. *Behavioral and Brain Functions*, 3, 52.
- Takahashi, T., Ikeda, K., & Hasegawa, T. (2007). Social evaluation-induced amylase elevation and economic decision-making in the dictator game in humans. *NeuroEndocrinology Letters*, 28, 662-665.
- Takahashi, T., Makino, T., Ohmura, Y., & Fukui, H. (in press). Employing delay and probability discounting frameworks for a neuroeconomic understanding of gambling behavior. *International Journal of Psychology Research*.
- Takahashi, T., Oono, H., Ohmura, Y., Kitamura, N., & Radford, M. H. B. (in press). Relationship between personality scales of impulsiveness and discounting of monetary gains and losses in smokers and never smokers. *International Journal of Psychology Research*.
- Takahashi, T., Oono, H., & Radford, M. H. B. (2007). Comparison of probabilistic choice models in humans. *Behavioral and Brain Functions*, 3.
- Takahashi, T., Oono, H., & Radford, M. H. B. (2007). Empirical estimation of consistency parameter in intertemporal choice based on Tsallis' statistics. *Physica A: Statistical Mechanics and Its Applications*, 381, 338-342.
- Takahashi, T., Sakaguchi, K., Oki, M., & Hasegawa, T. (in press). Sex hormonal modulation of hyperbolic discount factor in men. *Neuropsychoeconomics*.
- Takemura, K., & Yuki, M. (2007). Are Japanese groups more competitive than Japanese individuals? A cross-cultural validation of the interindividual-intergroup discontinuity effect. *International Journal of Psychology*, 42, 27-35.
- Takemura, K., Yuki, M., Maddux, W. W., & Ohtsubo, Y. (submitted). Two types of collectivism: Intragroup relationship orientation in Japan and intergroup comparison orientation in the United States.
- Toyomura, A., Koyama, S., Miyamoto, T., Terao, A., Omori, T., Murohashi, H., et al. (2007). Neural correlates of auditory feedback control in human. *Neuroscience*, 146, 499-503.
- Yamagishi, T., Hashimoto, H., & Schug, J. (in press). Preference vs. Strategy as Explanations of Culture-specific Behavior. *Psychological Science*.
- Yamagishi, T., & Mifune, N. (in press). Does shared group membership promote altruism? Fear, greed and reputation. *Rationality and Society*, 20, 5-30.
- Yamagishi, T., Mifune, N., Liu, J. H., & Pauling, J. (in press). Exchanges of Group-Based Favors: Ingroup Bias in the Prisoner's Dilemma Game with Minimal Groups in Japan and New Zealand. *Asian Journal of Social Psychology*.
- Yamagishi, T., Terai, S., Kiyonari, T., Mifune, N., & Kanazawa, S. (2007). The social exchange heuristic: Managing errors in social exchange. *Rationality and Society*, 19, 259-291.
- Yoshii, S. (2007). Probabilistic Adjustment Process Model in the Reproduction System: From A Long-Period Analysis to Evolutionary Economics. *Hokkaido University: Discussion Paper, Series A*, 179.
- Yoshii, S. (2007). A Study on Changes in the Composition of Output: An Alternative Consumption Theory in Terms of Multiple-self. *Evolutionary and Institutional Economics Review*, 4, 171-180.
- Yuki, M., Maddux, W. W., & Masuda, T. (2007). Are the windows to the soul the same in the East and West? Cultural differences in using the eyes and mouth as cues to recognize emotions in Japan and the United States. *Journal of Experimental Social Psychology*, 43, 303-311.

国際学会発表

- Adachi, M., Akasaka, A., & Konno, S. (2008). Does music elicit or reduce body movements of 3- to 4-month-old infants? Paper presented at the 16th Biennial International Conference on Infant Studies.

業績一覧

- Ando, K., Yorifuji, K., Ohnuma, S., Sugiura, J., & Usui, J. (2007). *Transmitting Environmental norms from parents to children*. Paper presented at the 7th Biennial Conference on Environmental Psychology.
- Fujita, M., Okada, Y., Naka, M., & Yamasaki, Y. (2007). *Criminal trial and lay participation (2) : Enemies of democracy within: The effect of authoritarian personality on attitudes toward Japanese new mixed jury system*. Paper presented at the 3rd International Congress of Psychology and Law.
- Hashimoto, H., Suzuki, N., & Yamagishi, T. (2007). *Strategy versus Preference as Explanations of Culture-specific Behavior: The Case of Preferences for Uniqueness and Conformity*. Paper presented at the 7th Conference of Asian Association of Social Psychology.
- Hirose, Y., Ohtomo, S., Ohnuma, S., & Nonami, H. (2007). *Effects of procedural and distributive fairness for other groups on acceptance of cost allocation in commons dilemma situation*. Paper presented at the 10th European Congress of Psychology.
- Horikawa, H., & Yuki, M. (2008). *In What Kind of Society Are Stereotypes Perceived to Predict Others' Behaviors More Accurately?: The Role of Relational Mobility*. Paper presented at the 4th SPSP Cultural Psychology Pre-Conference.
- Horikawa, H., & Yuki, M. (2008). *In What Kind of Society Are Stereotypes Perceived to Predict Others' Behaviors More Accurately?: The Role of Relational Mobility*. Paper presented at the 9th annual meeting of the Society of Personality and Social Psychology.
- Horita, Y., & Yamagishi, T. (2007). *The rejecting for maintaining self-image in the ultimatum game*. Paper presented at the 12th International Conference on Social Dilemma.
- Ishihara, K. (2007). *Brain imaging technology: philosophical and ethical implications*. Paper presented at the Biennial meeting of Society for Philosophy and Technology.
- Ishii, K., & Kitayama, S. (2007). *Outgroup homogeneity in perception: An examination in Japan and the U.S.* Paper presented at the 19th Annual Meeting of Association for Psychological Science.
- Ishii, K., & Kitayama, S. (2008). *Outgroup homogeneity in perception: An examination in Japan and the U.S.* Paper presented at the UCSB-Hokkaido Joint Conference "Evolution and the Sociality of Mind".
- Ishii, K., Tsukasaki, T., & Kitayama, S. (2007). *Culture and visual perception: Does perceptual inference depend on culture?* Paper presented at the 8th Annual Meeting of Society for Personality and Social Psychology.
- Itagaki, S., & Katayama, J. (2007). *Feedback-related negativity reflects the evaluation based on the one's own criteria*. Paper presented at the 47th Annual Meeting of the Society for Psychophysiological Research.
- Kanaya, K., Hamamura, T., Meijer, Z., Heine, S. J., & Hori, I. (2008). *Approach-avoidance motivation and information processing: cross cultural analysis*. Paper presented at the 4th SPSP Cultural Psychology Pre-Conference.
- Kanaya, K., Hamamura, T., Meijer, Z., Heine, S. J., & Hori, I. (2008). *Approach-avoidance motivation and information processing: cross cultural analysis*. Paper presented at the 9th annual meeting of the Society of Personality and Social Psychology.
- Kameda, T., Ishibashi, N., & Hastie, R. (2007). *Cooperation in Natural Group Tasks is NOT a Social Dilemma: A Marginally Diminishing Group Return Curve*. Paper presented at the 19th Annual Meeting of the Human Behavior and Evolution Society.
- Kida, I., & Adachi, M. (2008). *Exploring effects of early musical experiences on the infant's physical and motor development during the first year*. Paper presented at the 16th Biennial International Conference on Infant Studies.
- Kimura, M., Katayama, J., & Murohashi, H. (2007). *Involvement of memory-based change detection in visual distraction*. Paper presented at the 47th Annual Meeting of the Society for Psychophysiological Research.
- Kitayama, S., & Ishii, K. (2007). *Voluntary settlement and independent agency: Emotional consequences of independence norms in Hokkaido*. Paper presented at the 8th Annual Meeting of Society for Personality and Social Psychology.
- Liang, S., Lin, Y., Huang, L., Chang, Y., Huang, C., Yamagishi, T., et al. (2007). *In-group Dynamics Comparison in Taiwan, China and Japan*. Paper presented at the 7th Conference of Asian Association of Social Psychology.
- Maeda, H., Hirose, Y., Sugiura, J., & Ohnuma, S. (2007). *Could the citizens gain their empowments by involving participation of the planning cells?* Paper presented at the 7th Biennial Conference on Environmental Psychology.
- Mashima, R. (2008). *How do we treat givers to free-riders in indirect reciprocity setting?* Paper presented at the 1st Global COE International Symposium "Evolution and the Sociality of Mind".
- Masuda, Y. (2007). *Norm formations and ethics in transition economies*. Paper presented at the Applied Ethics: 2nd International Conference in Sapporo.
- Mifune, N., Liu, J., & Yamagishi, T. (2007). *Ingroup favoritism as generalized exchange of favors. Comparison of Japanese and New Zealanders*. Paper presented at the 7th Conference of Asian Association of Social Psychology.
- Mifune, N., & Yamagishi, T. (2007). *Ingroup favoritism in the dictator game*. Paper presented at the 12th International Conference on Social Dilemmas.
- Miwa, T., & Naka, M. (2007). *Children's description of their experiences: What do they remember about emotionally negative and positive events?* Paper presented at the Society for Applied Research in Memory and Cognition.
- Murata, A., & Katayama, J. (2007). *Action-monitoring processing is more sensitive to gain than avoidance of the loss*. Paper presented at the 47th Annual Meeting of the Society for Psychophysiological Research.
- Murohashi, H. (2007). *Different understandings of inclusion and exclusion for education in Japan and UK*. Paper presented at the Lifelong Learning Institute Seminar.
- Murohashi, H. (2007). *Understandings inclusion/exclusion in Japan - With special reference to special needs education*. Paper presented at the Conference of the ESREA network on working-life and learning.
- Naka, M. (2007). *Children's description of other's feelings and their own feelings*. Paper presented at the Society for Applied Research in Memory and Cognition.
- Naka, M. (2007). *Interviewing young offenders*. Paper presented at the 3rd International Congress of Psychology and Law.
- Naka, M., Okada, Y., Yamasaki, Y., & Fujita, M. (2007). *Criminal trial and lay participation (3) : Effects of note-taking on lay judges' comprehension and decision making in a mock trial*. Paper presented at the 3rd International Congress of Psychology and Law.
- Nonami, H., Hirose, Y., Ohnuma, S., & Midden, C. L. H. (2007). *Effects of voice and similarity on the procedural fairness: Trust in both authority and delegates in social decisions*. Paper presented at the 10th European Congress of Psychology.
- Obata, N., & Takigawa, T. (2007). *Effect of non-directive feedback and directive advice in decision making*. Paper presented at the 10th European Congress of Psychology.
- Ohnuma, S. (2007). *A Field Research Study in Environmental Psychology*. Paper presented at the 10th Workshop on Integrative Understanding of Humans, Program for Initiatives for Attractive Education in Graduate Students.
- Ohnuma, S., Hirose, Y., Nonami, H., & Sugiura, J. (2007). *Procedural fairness as a determinant of policy support via a citizen participation project: a case study of planning-cells in Lengerich*. Paper presented at the 10th European Congress of Psychology.
- Ohnuma, S., & Kono, Y. (2007). *A field study of bicycle parking behavior from a social dilemma approach*. Paper presented at the 7th Biennial Conference on Environmental Psychology.
- Okada, Y., Naka, M., Fujita, M., & Yamasaki, Y. (2007). *Criminal trial and lay participation (1) : A follow-up survey of Japanese attitudes toward legal profession and expertise*. Paper presented at the 3rd International Congress of Psychology and Law.
- Sato, K., Yuki, M., & Oishi, S. (2007). *The Influence of Relational Mobility on Self-Esteem*. Paper presented at the 7th Conference of Asian Association of Social Psychology.
- Sato, K., Yuki, M., Takemura, K., Schug, J., & Oishi, S. (2008). *The "openness" of a society determines the relationship between self-esteem and subjective well-being (1) : A cross-societal comparison*. Paper presented at the 4th SPSP Cultural Psychology Pre-Conference.
- Sato, K., Yuki, M., Takemura, K., Schug, J., & Oishi, S. (2008). *The "openness" of a society determines the relationship between self-esteem and subjective well-being (1) : A cross-societal comparison*. Paper presented at the 9th annual meeting of the Society of Personality and Social Psychology.
- Sato, K., Yuki, M., Takemura, K., Schug, J., & Oishi, S. (2008). *The "openness" of a society determines the relationship between self-esteem and subjective well-being (1) : A cross-societal comparison*. Paper presented at the Evolution and the Sociality of Mind Conference.
- Sawaki, R., & Katayama, J. (2007). *Difficulty of discrimination modulates attentional capture by regulating attentional focus*. Paper presented at the 47th Annual Meeting of the Society for Psychophysiological Research.
- Schug, J., & Yuki, M. (2007). *Relational Mobility and interpersonal similarity in Japan and the United States*. Paper presented at the 7th Conference of Asian Association of Social Psychology.
- Schug, J., & Yuki, M. (2007). *Similarity attraction, relational mobility, and actually selecting similar others: How social structural differences between Japan and the United States affect interpersonal similarity*. Paper presented at the 3rd SPSP Cultural Psychology Pre-Conference.
- Schug, J., & Yuki, M. (2007). *Similarity attraction, relational mobility, and actually selecting similar others: How social structural differences between Japan and the United States affect interpersonal similarity*. Paper presented at the 8th Annual Meeting of Society for Personality and Social Psychology.
- Schug, J., Yuki, M., & Maddux, W. W. (2008). *Self-disclosure as a relationship-strengthening strategy adaptive to mobile societies*. Paper presented at the 4th SPSP Cultural Psychology Pre-Conference.
- Schug, J., Yuki, M., & Maddux, W. W. (2008). *Self-disclosure as a relationship-strengthening strategy adaptive to mobile societies*. Paper presented at the 9th annual meeting of the Society of Personality and Social Psychology.
- Schug, J., Yuki, M., & Maddux, W. W. (2008). *Self-disclosure as a relationship-strengthening strategy adaptive to mobile societies*. Paper presented at the Evolution and the Sociality of Mind Conference.
- Shinada, M. (2007). *Between-group conflict spiral: "Generalized exchange" of hatred*. Paper presented at the 7th Conference of Asian Association of Social Psychology.
- Shinada, M., & Yamagishi, T. (2007). *Punishing Free-riders: Direct and Indirect Promotion of Cooperation*. Paper presented at the 2007 Asia-Pacific Regional Meeting of the Economic Science Association.
- Shinada, M., & Yamagishi, T. (2007). *The voluntarily provided punishment and indirect effect of punishment*. Paper presented at the 12th International Conference on Social Dilemmas.
- Shiraishi, H., & Naka, M. (2007). *Cognitive interview and interviewees' personality and self-efficacy*. Paper presented at the 3rd International Congress of Psychology and Law.
- Sugiura, J., Hirose, Y., Ohnuma, S., & Maeda, H. (2007). *Comparison between participants and non-participants in a citizen participation program in terms of procedural fairness and its relevant factors: A case study in Bavaria. Citizens report for health*. Paper presented at the 7th Biennial Conference on Environmental Psychology.
- Takagihi, H., & Yamagishi, T. (2007). *Comparison of the Role of Intentions in Second-party and Third-party Punishment*. Paper presented at the 19th Annual Meeting of Human Behavior and Evolution Society.
- Takahashi, C. (2007). *Trust and reciprocity in three societies: A joint-cultural experiment in Japan, China, and Taiwan*. Paper presented at the 7th Conference of Asian Association of Social Psychology.
- Takahashi, N. (2007). *Adaptive Bases of Human Rationality*. Paper presented at the International Workshop on Philosophy and Ethics of Social Reality.
- Takahashi, N. (2008). *How do we treat givers to free-riders in indirect reciprocity setting?* Paper presented at the 1st International Symposium of Grant-in-Aid for Scientific Research for Priority Areas.
- Takahashi, N., & Mashima, R. (2007). *Do People Help Those who Helped a Free-Rider? An Experimental Study to Examine Strategies in Indirect Reciprocity Settings*. Paper presented at the 12th International Conference on Social Dilemmas.
- Takahashi, N., & Mashima, R. (2007). *Do People Help Those who Helped a Free-Rider? An Experimental Study to Examine Strategies in Indirect Reciprocity Settings*. Paper presented at the 11th Experimental Social Sciences Conferences in Japan.
- Takahashi, N., & Mashima, R. (2007). *How do people choose their recipients in generalized exchange?: An experimental study to examine strategies in indirect reciprocity settings*. Paper presented at the American Sociological Association 102nd Annual Meeting.
- Takahashi, T. (2007). *Theoretical frameworks for neuroeconomics for intertemporal choice*. Paper presented at the Society for Neuroeconomics.
- Takahashi, T. (2008). *Neuroeconomics of intertemporal and probabilistic choice*. Paper presented at the UCSB-Hokkaido university workshop.
- Takemura, K. (2008). *On the default assumption of monitoring and sanctioning behind Japanese collectivism: A view from social institutional analysis and error management theory*. Paper presented at the Evolution and the Sociality of Mind Conference.
- Takemura, K., & Arimoto, H. (2007). *Independent self in Japan's "Northern frontier": An experiment of cognitive dissonance in Hokkaido*. Paper presented at the 8th Annual Meeting of Society of Personality and Social Psychology.
- Takemura, K., & Yuki, M. (2008). *The "openness" of a society determines the relationship between self-esteem and subjective well-being (3) : A secondary data analysis*. Paper presented at the 4th SPSP Cultural Psychology Pre-Conference.
- Takemura, K., & Yuki, M. (2008). *The "openness" of a society determines the relationship between self-esteem and subjective well-being (3) : A secondary data analysis*. Paper presented at the 9th annual meeting of the Society of Personality and Social Psychology.
- Takemura, K., Yuki, M., Maddux, W. W., & Ohtsubo, Y. (2007). *Two types of collectivism: Intragroup relationship orientation in Japan and intergroup comparison orientation in the United States*. Paper presented at the 7th Conference of Asian Association of Social Psychology.
- Takemura, K., Yuki, M., Maddux, W. W., & Ohtsubo, Y. (2007). *Two types of collectivism: Intragroup relationship orientation in Japan and intergroup comparison orientation in the United States*. Paper presented at the 3rd SPSP Cultural Psychology Pre-Conference.

2007年度の業績一覧

- Uematsu, A., & Naka, M. (2007). *Perception of lies: How do junior high school students and their parents identify lies?* Paper presented at the Society for Applied Research in Memory and Cognition.
- Wang, F., Wang, K., Yamagishi, T., Liu, J., Lin, Y., Takahashi, C., et al. (2007). *Chinese trust and reciprocity with Taiwanese/Japanese*. Paper presented at the 7th Conference of Asian Association of Social Psychology.
- Wang, H., Masuda, T., & Ishii, K. (2008). *Comparing patterns of attention between Canadian and East Asian international students*. Paper presented at the 9th Annual meeting of Society for Personality and Social Psychology.
- Watabe, M., Gonzalez, R. E., Toriyama, R., Ishii, K., Nakamura, M., Morimoto, Y., et al. (2007). *Culturally embedded resource allocation strategy: An ultimatum game experiment and agent-based computer simulation*. Paper presented at the 102nd Annual Meeting of American Sociological Association.
- Yamagishi, T. (2007). *Joint cultural, cross-societal experiments on trust: a theoretical overview*. Paper presented at the 7th Conference of Asian Association of Social Psychology Conference.
- Yamagishi, T. (2007). *A joint-societal experiment of cross-national trust in East Asia: Japanese, Chinese, and Taiwanese*. Paper presented at the Center for Japanese Studies, University of Michigan.
- Yamagishi, T. (2007). *Reciprocity, Strong Reciprocity, and Fairness*. Paper presented at the Annual Conference of the Society of Experimental Social Psychology.
- Yamagishi, T. (2007). *Social axioms, default strategies, and institution*. Paper presented at the Fall Seminar Series, Research Center for Group Dynamics, University of Michigan.
- Yamagishi, T. (2008). *Cross-cultural trust in East-Asia: Japanese, Chinese, and Taiwanese*. Paper presented at the Experimental Social Sciences 1st International Symposium.
- Yamagishi, T. (2008). *In-group favoring behavior as a reputation device*. Paper presented at the 1st GCOE International Symposium "Evolution and Sociality of Mind".
- Yamazaki, Y., Naka, M., Okada, Y., & Fujita, M. (2007). *Criminal trial and lay participation (4): The effect of note-taking on lay judges' deliberation*. Paper presented at the 3rd International Congress of Psychology and Law.
- Yamazaki, K., & Katayama, J. (2007). *Early visual component of ERP reflected the mental imagery generation and inspection*. Paper presented at the Cognitive Neuroscience Society 2007 Annual Meeting.
- Yeung, W. L. V. (2007). *Cultural Psychology: Conceptual foundation-structural approach*. Paper presented at the graduate seminar, University of Illinois.
- Yeung, W. L. V., & Kashima, Y. (2007). *Culture and Stereotype Communication: Are people from Eastern cultures more stereotypical in communication?* Paper presented at the 1st International Workshop, the Center for the Sociality of Mind.
- Yeung, W. L. V., & Kashima, Y. (2007). **Culture and Stereotype Communication: Are there Cultural Differences in Stereotype Communication?* Paper presented at the 8th Annual meeting of Society for Personality and Social Psychology.
- Yeung, W. L. V., & Kashima, Y. (2007). *Culture and Stereotype Communication: Are there Cultural Differences in Stereotype Communication?* Paper presented at the Social-Personality Colloquium, University of Illinois.
- Yokota, K., & Yuki, M. (2007). *Different facets of perceived entitativity lead to different types of intergroup threats and emotions*. Paper presented at the 8th Annual meeting of Society of Personality and Social Psychology.
- Yokota, K., & Yuki, M. (2008). *Different kinds of perceived entitativity lead to different kinds of perceived threats and emotions toward outgroups: An examination of real-world social groups*. Paper presented at the 9th annual meeting of the Society of Personality and Social Psychology.
- Yokota, K., & Yuki, M. (2008). *Sex Differences in Adaptive Psychological Mechanisms to Various Types of Intergroup Threats*. Paper presented at the Evolution and the Sociality of Mind Conference.
- Yuki, M., Sato, K., Schug, J., Horikawa, H., Takemura, K., & Kaneko, M. (2007). *The "openness" of a society and the relationship between self-esteem and subjective well-being*. Paper presented at the 7th Conference of Asian Association of Social Psychology.
- Yuki, M., Sato, K., Takemura, K., Horikawa, H., & Schug, J. (2008). *The "openness" of a society determines the relationship between self-esteem and subjective well-being (2): A situational priming study*. Paper presented at the 9th annual meeting of the Society of Personality and Social Psychology.

和書

- 煎本孝. (2007). *トナカイ遊牧民、循環のフィロソファー*. 東京: 朝石書店。
- 煎本孝. (2007). *北方研究の展開*. 煎本孝・山岸俊男 (編), 現代文化人類学の課題―北方研究から見る (pp. 4-30). 京都: 世界思想社。
- 煎本孝. (2007). *アイヌ文化における死の儀式の復興をめぐる葛摩と帰属性*. 煎本孝・山田孝子 (編), 北の民の人類学 (pp. 9-36). 京都: 京都大学学術出版会。
- 煎本孝. (2007). *未來の民族性と帰属性*. 煎本孝・山田孝子 (編), 北の民の人類学 (pp. 317-329). 京都: 京都大学学術出版会。
- 煎本孝. (2007). *人類学的アプローチによる心の社会性*. 煎本孝・高橋伸幸・山岸俊男 (編), 集団生活の論理と実践―互恵性を巡る心理学と人類学的検討 (pp. 3-33). 札幌: 北海道大学出版会。
- 煎本孝・高橋伸幸・山岸俊男 (編). (2007). *集団生活の論理と実践―互恵性を巡る心理学と人類学的検討*. 札幌: 北海道大学出版会。
- 煎本孝・山岸俊男. (2007). *はじめに*. 煎本孝・山岸俊男 (編), 現代文化人類学の課題―北方研究から見る (pp. 1-4). 京都: 世界思想社。
- 煎本孝・山岸俊男. (2007). *われに*. 煎本孝・山岸俊男 (編), 現代文化人類学の課題―北方研究から見る (pp. 231-233). 京都: 世界思想社。
- 煎本孝・山岸俊男 (編). (2007). *現代文化人類学の課題―北方研究から見る*. 京都: 世界思想社。
- 煎本孝・山田孝子. (2007). *北の民の民族性と帰属性*. 煎本孝・山田孝子 (編), 北の民の人類学 (pp. 1-6). 京都: 京都大学学術出版会。
- 煎本孝・山田孝子 (編). (2007). *北の民の人類学*. 京都: 京都大学学術出版会。
- 石原季二. (2007). *人文・社会科学と科学技術コミュニケーション*. 杉山謙蔵 (編), サイエンスコミュニケーション (pp. 72-79). 京都: ナカニシヤ出版。
- 石原季二. (2007). *環境政策と予防原則*. 日本公共政策学会 (編), 科学技術の公共政策 (pp. 78-82). 東京: 中央大学出版社。
- 石原季二. (2007). *技術リスクにどう向き合べきか*. 北海道技術者倫理研究会 (編), オムニバス技術者倫理 (pp. 25-35). 東京: 共立出版。
- 石井敬子. (印刷中). *文化心理学と単純接觸効果*. 宮本聰介・太田信夫 (編), *単純接觸効果研究の最前線*. 北大路書房。
- 亀田進也・石橋伸幸・犬飼佳吾・岩渕恵. (2007). *適応システムとしての「心」社会心理学とゲーム理論*. 稲溝セミ

- ナー「ゲーム理論+」 (pp. 64-67). 東京: 日本評論社。
- 木村美希. (2007). *西シベリア地域の通過儀礼、変化、集団維持機能*. 荒木孝・高橋伸幸・山岸俊男 (編), 集団生活の論理と実践―互恵性を巡る心理学と人類学的検討 (pp. 87-100). 札幌: 北海道大学出版会。
- 横溝一. (印刷中). *ライフスパンにおける自伝的記憶の分布*. 佐藤公一・越智啓太 (編), *自伝的記憶の心理学*. 京都: 北大路書房。
- 仲真紀子. (2007). *供述という会話の特質―予兆を見逃さない事情聴取*. 内田伸子・坂元章 (編), *リスク社会を生き抜くコミュニケーション* (pp. 149-169). 東京: 金子書房。
- 仲真紀子. (2007). *思い出はどこから・出来事の記憶と想起*. 内田伸子・氏家達夫 (編), *発達心理学特論* (pp. 53-66). 東京: 日本放送出版協会。
- 仲真紀子. (2007). *情報を分かち合う―出来事の報告と目撃証言*. 内田伸子・氏家達夫 (編), *発達心理学特論* (pp. 81-93). 東京: 日本放送出版協会。
- 仲真紀子 (編). (2007). *感情と記憶*. 東京: 日本放送出版協会。
- 仲真紀子 (編). (2007). *目撃証言と感情*. 東京: 日本放送出版協会。
- 仲真紀子 (編). (2008). *記憶し想起する心の発達*. 内田伸子 (編), *よくわかる乳幼児心理学* (pp. 114-124). ミネルヴァ書房。
- 仲真紀子. (印刷中). *記憶*. 西川泰夫・阿部純一・仲真紀子 (編), *認知科学の展開*. 日本放送出版学会。
- 仲真紀子. (印刷中). *認知発達*. 西川泰夫・阿部純一・仲真紀子 (編), *認知科学の展開*. 日本放送出版学会。
- 仲真紀子. (印刷中). *言語コミュニケーション*. 西川泰夫・阿部純一・仲真紀子 (編), *認知科学の展開*. 日本放送出版学会。
- 仲真紀子. (印刷中). *心語りと感情表現*. 佐藤浩一 (編), *自伝的記憶の心理学*. 北大路書房。
- 仲真紀子. (印刷中). *談話の産出・理解におけるメタ認知*. 田中真智子 (編), *メタ認知の心理学*. 北大路書房。
- 仲真紀子・田中真智子 (監訳). (2007). *子どもの司法面接―ビデオ録画面接のためのガイドライン*. 東京: 誠信書房。
- 西部忠. (2007). *市場の内部化と市場経済化*. 小幡道昭・青才高志・清水敦 (編), *マルクス理論研究* (pp. 91-106). 東京: 御茶の水書房。
- 西部忠・原勲. (2007). *第1章 地域創造性開発の基本視点*. 地域の「創造力」向上を目指した再生のあり方 (pp. 25-39). 札幌: 社団法人北海道未来総合研究所。
- 大沼進. (2007). *人はどのような環境問題解決を望むのか―社会的ジレンマからのアプローチ*. 京都: ナカニシヤ出版。
- 大沼進. (2008). *環境をめぐる社会的ジレンマは解決できるのか*. 広瀬幸雄 (編), *環境行動の社会心理学* (pp. 18-27). 北大路書房。
- 奥井亮・肥前洋一. (2007). *納得できるオリンピック代表選手の選び方*. 経済セミナー「ゲーム理論+」 (pp. 114-117). 東京: 日本評論社。
- 齋藤貴之. (2007). *文化との相互関係―銀治屋利用者の利用習慣によって形成されるビジュアルと秋田の銀治屋の心の相違*. 煎本孝・高橋伸幸・山岸俊男 (編), 集団生活の論理と実践―互恵性を巡る心理学と人類学的検討 (pp. 70-86). 札幌: 北海道大学出版会。
- 高橋伸幸. (2007). *人間社会の特徴としての社会的交換*. 煎本孝・高橋伸幸・山岸俊男 (編), 集団生活の論理と実践―互恵性を巡る心理学と人類学的検討 (pp. 34-54). 札幌: 北海道大学出版会。
- 竹村幸祐. (2007). *日本人の集団主義を支える制度と心*. 心理学実験による検討. 煎本孝・高橋伸幸・山岸俊男 (編), *社会集団の論理と実践―互恵性を巡る心理学と人類学的検討* (pp. 156-170). 札幌: 北海道大学出版会。
- 竹村幸祐. (2008). *自己概念と文化・認知の不協和現象の国間比較および内地域間比較による検討*. 榎本博明・岡田努・下斗米淳 (編), *社会心理学へのアプローチ*. 東京: 金子書房。
- 上原周子. (2007). *生活中におけるオランサマの祭―集団の活動と凝集性*. 煎本孝・高橋伸幸・山岸俊男 (編), 集団生活の論理と実践―互恵性を巡る心理学と人類学的検討 (pp. 101-116). 札幌: 北海道大学出版会。
- 山田一成・北村英哉・結城雅樹 (編). (2007). *よくわかる社会心理学*. ミネルヴァ書房。
- 山岸俊男. (2007). *文化への制度アプローチ*. 河野勝・西條辰義 (編), *社会科学の実験アプローチ* (pp. 141-170). 頭草書房。
- 山岸俊男. (2007). *心の文化・生態学的基盤*. 煎本孝・山岸俊男 (編), *現代文化人類学の課題―北方研究から見る* (pp. 31-42). 京都: 世界思想社。
- 山岸俊男. (2007). *「心の社会性」解明に向けて*. 煎本孝・高橋伸幸・山岸俊男 (編), 集団生活の論理と実践―互恵性を巡る心理学と人類学的検討 (pp. 187-195). 札幌: 北海道大学出版会。
- 山岸俊男. (2008). *日本の「安心」はなぜ消えたのか*. 集英社インターナショナル。
- 山岸俊男・清成透子. (2008). *集団内協力と集団内信頼*. 土場学・篠木幹子 (編), *個人と社会の相克: 社会的ジレンマアプローチの可能性* (pp. 125-156). ミネルヴァ書房。
- 山口未花子. (2007). *模型沿岸捕鯨社会の規範と捕鯨者の心*. 煎本孝・高橋伸幸・山岸俊男 (編), 集団生活の論理と実践―互恵性を巡る心理学と人類学的検討 (pp. 57-69). 札幌: 北海道大学出版会。
- 山口未花子・齋藤貴之・木村美希・上原周子・仲間大輔・鈴木直人・竹村幸祐. (2007). *討論: 心のしくみ解明のため* フィールド研究で実験研究でできることは? 煎本孝・高橋伸幸・山岸俊男 (編), *社会集団の論理と実践: 互恵性を巡る心理学と人類学的検討* (pp. 173-186). 札幌: 北海道大学出版会。
- 山崎優子. (印刷中). *心の心証形成理論の原点: 判決官の心証形成の心理学、法と心理*.
- 山崎優子. (印刷中). *犯罪者プロファイリングと犯罪との関連付け*. 仲真紀子 (編), *司法心理学入門*. 東京: 有斐閣。
- 横田晋大. (2007). *内集団ひきと集団間葛藤*. 山田一成・北村英哉・結城雅樹 (編), *よくわかる社会心理学* (pp. 112-115). ミネルヴァ書房。
- 学術論文・国内誌**
- 堀田結季・山岸俊男. (2007). *互酬性と同一性保護―最後通告ゲームにおける拒否の理由*. 心理学研究, 78, 446-451.
- 堀田結季・山岸俊男. (2008). *最後通告ゲームでの意図のない不公正分配の拒否*. 実験社会心理学研究, 47, 169-177.
- 煎本孝. (2007). *北方研究からみる人類学の今日的課題*. 北方学会報, 96-98.
- 煎本孝. (2007). *日本における北方研究の再検討―自然誌―自然と文化の人類学の視点から*. Anthropological Science (Japanese Series), 115, 1-13.
- Ishii, K., & Kitayama, S. (2007). *Holistic attention to context in Japan: A test with non-student adults*. 社会心理学研究, 23, 181-186.
- 石崎千景・仲真紀子・有富美代子. (2007). *文脈情報の想起および言語化が顔の記憶の正確さと確信度の関係に及ぼす影響*. 心理学研究, 78, 63-69.
- 吉地望・栗田健一・丹舟鷺・西部忠. (2007). *地域通貨を通じた社会関係資本形成への多面的接近: 通貨流通ネットワーク分析アングル・インタビュー調査に基づく*. 経済社会学会年報, 29, 207-222.
- 吉地望・西部忠. (2007). *分散的発行通貨と集中的発行通貨の特性比較―LET'Sを使ったランダム・ネットワーク・ミュレーションによる*. 経済学研究, 57, 85-98.
- 木村美希. (2007). *シベリア地域民族の伝統的通貨とその変化*. 北方学会報, 70-81.
- 木村元洋・片山順一・室橋春光. (2007). *事象関連脳電位を用いた視覚変化検出メカニズムの解明*. Vision, 19, 137-142.
- 木村元洋・片山順一・室橋春光. (2007). *視覚変化検出に関する事象関連脳電位研究の概観*. 臨床脳波, 49, 750-755.
- 清成透子・Margaret Foddy・山岸俊男. (2007). *直接交換と間接交換が内集団信頼行動へ及ぼす影響*. 心理学研究, 77, 519-527.
- 栗田健一. (2007). *地元通貨思想の起源E.C.リーゲルの経済思想再考*. 経済社会学会年報, 29, 207-222.
- 栗田健一. (2007). *平等主義におけるコミュニティの「ヴィジョン-ボルズ=ギンタスのコミュニティガヴァナンス論の検討*. 比較経済体制研究.

業績一覽

- 舛田佳弘。(2007). 改革期中国に見る多様な所有の可能性名目上の社会主義か第3の道か。経済社会学会年報, 29, 113-122.

室橋春光・加藤有一・渡辺典子・薦森英史。(2007). 学習障害の生物学的基盤—読み書き障害に関する検討—。発達障害研究, 29, 17-24.

室橋春光。(2007). LDのトータルな理解をめざして—生物学的基盤から社会的環境まで—。LD研究, 16, 2-9.

室橋春光。(2007). 生きにぎこちる子どもたち—生物学的基盤から社会的環境まで—。北海道大学大学院教育学研究科子ども発達臨床研究, 1, 11-17.

室橋春光。(印刷中). 土曜教室の教育的意義。子ども発達臨床研究。

西部忠。(2007). 進化主義的制度設計におけるルールと制度の意味。経済社会学会年報, 29, 86-94.

西部忠。(2008). 地域通貨の流通ネットワーク分析—経済活性化とコミュニティ構築のための制度設計に向けて—。情報処理学会, 49, 290-297.

大沼進・北桜陽子。(2007). 産業廃棄物不法投棄ゲームの開発と社会的シンスマップ:利得構造と情熱の両特性という構成的条件がもたらす効果の検討。シミュレーション&ゲーミング, 17, 1-12.

田岡悦洋・仲真紀子・藤田政博。(2007). 裁判員の刑事裁判への参加意識と法に関する認識(3・完)・予備的アンケート調査から。南山法学, 30, 49-92.

齋藤貴之。(2007). 伝統社会の変化と生存—ヴィュヌブルの鍛冶屋とその利用者を事例として—。北方学会報, 54-70.

品田瑞穂。(印刷中). 二次の協力行動としての第三者による罰行動。実験社会心理学研究。

鈴木直人・金野祐介・山岸俊男。(2007). 信頼行動の内集団バイアス—最小条件集団を用いた分配者選択実験。心理研究, 78, 17-24.

鈴木直人・高橋知里。(2007). 日本人の折衷的判断における社会的文脈の効果。心理学研究, 77, 528-533.

高岸治人・高橋伸幸・山岸俊男。(印刷中). 第三者による不公正是正行動における意図の役割。実験社会心理学研究。

高橋知里・山岸俊男・橋本博文。(投稿中). デフォルト方略としての自己卑下的自己呈示。

竹村幸祐・有本裕美。(印刷中). 「北の大」における相互独立の自己:北海道での認知的不協和実験。実験社会心理学研究。

田村亮・亀塹達也。(2007). 恐怖感情は伝染するか?選択の注意配分行動による検討。感情心理学研究, 14, 64-70.

丹藤克也・仲真紀子。(2007). 検索誘導性忘却の持続性。心理学研究, 78, 310-315.

土田幸美・片山順一・室橋春光。(2007). ワーキングメモリ容量の個人差と視覚3刺激オドボール課題におけるP3成分の関係。電子情報通信学会技術研究報告(信学技報), 107, 1-5.

上原周子。(2007). 青島市東部におけるチベト人の信仰。北方学会報, 30-39.

山口未花子。(2007). 北米狩猟採集民カスカの現在。北方学会報, 39-53.

山口未花子。(2007). クジラヒトを結ぶもの—日本における小型沿岸捕鯨活動の今日的展開と砲手の役割。エコノミア, 86-105, 200.

横田晋大・結城雅樹。(投稿中). 戦争と平和と内集団ひき—集団間行動を支える心理過程の多様性と集団間文脈との質的対応関係。

吉田昌幸。(2007). 企業家論における市場経済の動態:企業家活動に対する経済社会学的アプローチ。経済社会学会年報, 29, 196-205.

吉田昌幸。(2007). 企業家競争における市場と企業の動態的関係:シェンバータとカーズナーの企業家競争論の検討。社会・経済システム学会, 28, 115-128.

吉井哲。(2007). スラフ体系と需要。経済学研究, 57, 27-40.

吉井哲。(2007). 「多次元的な自我」の観点による代替的な消費者理論に向けての一考察。経済社会学会年報, 29, 95-104.

国内学会発表

馬場則大・半田久志・大沼進・長澤健太。(2007). 環境ゲームをより興味深くするための進化計算の活用とその効果。日本シミュレーション&ゲーミング学会全国大会2007年秋号。

橋本博文・山岸俊男。(2007). 自己卑下・自己高揚傾向に関する実験研究:文化への制度アプローチに基づいて。第11回実験社会科学コンファレンス。

橋本博文・山岸俊男。(2007). 社会的環境へのデフォルトの適応戦略:文化への制度アプローチの視点から。人間行動進化研究会第9回研究発表会。

橋本博文・山岸俊男。(2007). 対人場面におけるデフォルトの自己提示戦略:日本比較研究を通して。日本社会心理学会第48回大会。

橋本博文・山岸俊男。(2007). 自己卑下の自己提示に対する制度アプローチ。北海道心理学会第54回大会。

橋本博文・山岸俊男。(2007). デフォルトの適応戦略としての文化特定的行動。日本グループ・ダイナミクス学会第54回大会。

平野晋吾・広畠佳治・室橋春光。(2007). 脳波活動の時間変動を用いた入眠時における覚醒水準低下過程の検討。第25回日本生理心理学年会。

肥前洋一・新名理史。(2007). Imposing a Lower Bound on Voter Turnout. 日本経済学会2007年度秋季大会。

本多悠葵・瀧川哲夫。(2007). ステレオタイプが対人判断に及ぼす影響～ステレオタイプ不一致情報の記憶と好みの判断について～。日本心理学会第71回大会。

本多悠葵・瀧川哲夫。(2007). 反ステレオタイプの行動についての原因帰属と好みの推測。日本社会心理学会第48回大会。

本多悠葵・瀧川哲夫。(2007). メディア情報の保持が対人判断に及ぼす影響。北海道心理学会第54回大会。

堀川裕生・結城雅樹。(2007). ステレオタイプが有用な社会状況と無用な社会状況:関係流動性ブライミングを用いた検討。日本社会心理学会第48回大会。

堀川裕生・結城雅樹。(2007). 社会構造とステレオタイプ:関係流動性がステレオタイプの正確性認知に与える影響の検討。北海道心理学会第54回大会。

堀田絆季・山岸俊男。(2007). 一般交換システムへの適応としての内集団ひき:順序つきPDHを用いた実験研究。日本社会心理学会第48回大会。

堀田絆季・山岸俊男。(2007). 最後通告ゲームにおける骨一性保護の役割。第11回実験社会科学コンファレンス。

堀田絆季・山岸俊男。(2007). 最後通告ゲームにおける自己イメージの保持としての拒否。北海道心理学会第54回大会。

堀田絆季・山岸俊男。(2007). 自集団への互恵行動の適応基盤:順次付き囚人のジレンマを用いた検討。人間行動進化研究会第9回研究発表会。

堀田絆季・山岸俊男。(2007). 最後通告ゲームでの意図によらない不公平分配の拒否。日本グループ・ダイナミクス学会第34回大会。

犬飼佳音。(2007). 感情の諸相と社会生態学的環境:経験抽出法と行動実験による検証。日本感情心理学会第15回大会。

犬飼佳音・亀塙達也。(2007). 感情の諸相と社会階層:経験抽出法と行動実験による検証。日本社会心理学会第48回大会。

前木孝子。(2007). 人類の進化と北方適応。日本文化人類学会第41回研究大会シンポジウム・21世紀地球人類の危機と人類学。

石橋伸惠・亀塙達也。(2007). 集団作業における行動の個人差と行動的均衡の発生—「二八の法則」の心理・生態学的基盤(2)。日本社会心理学年会第48回大会。

石橋伸惠・亀塙達也。(2007). コラボレーションの社会・生態学的基盤:フリーライダーの出現と「二八の法則」。日本認知科学会第24回大会。

石原孝二。(2007). 工学倫理・研究倫理と情報知識学会。情報知識学会第15回大会。

石原孝二。(2007). 社会の合理性の成立基盤。日本倫理学会第58回大会。

石井敬子・Robert Kurzban。(2007). 循環型の公共財ゲームにおける行動戦略:日本における検討。第9回国際行動進化研究会。

石井敬子・Mary Ridgon・北山忍・渡部幹。(2007). 「はに見える?独裁者ゲームにおける他者の目的効果。日本心理学会第71回大会。

石崎千景・仲真紀子。(2007). 市民は犯人識別の信頼性をいかにして判断するか? 法と心理学会第8回大会。

板垣俊・片山順一。(2007). ギャンブルング課題における自己と他者の結果に対する期待と評価:結果呈示前後のERPによる検討。第25回日本生理心理学会。

板垣俊・片山順一。(2007). 他者と対立する関係におけるギャンブルング課題の結果の評価:事象関連脳電位での検討。日本心理学会第71回大会。

伊東裕司・三浦大志・藤川奈々・山崎優子・仲真紀子。(2007). 裁判員の判断に被告人の職業・経歴などの情報が及ぼす影響:認知欲求との関連。法と心理学会第8回大会。

伊東裕司・仲真紀子。(2007). 記憶・認知の応用研究—その広がりと可能性。日本心理学会第71回大会。

岩井尚義・安達真由美。(2007). Jポップ風の歌における情動的印象:曲と歌詞についての検討。北海道心理学会第54回大会。

釜屋健吾・浜村武・Steven S. Heine・堺和泉。(2007). 成功を求める北米人、失敗を避ける日本人-制御焦点と情報処理の比較文化研究。日本社会心理学会第48回大会。

釜屋健吾・結城雅樹。(2007). 社会構造が原因帰属に与える影響。北海道心理学会第54回大会。

鳥田達也。(2007). 適応装置としてのグループー集合知:ただ乗り問題-進化ゲームー。日本心理学会第71回大会。

片桐正敏・河西哲子・室橋春光。(2007). 健常成人における自閉症尺度得点による視覚処理特性の違い。ヒューマン情報処理研究会。

片山順一。(2007). 棚定討論「ワークショップ:事象関連電位をどう使うか-若手研究者からの提言[4]」。日本心理学会第71回大会。

片山順一・澤木梨沙。(2007). 刺激文脈による逸脱刺激処理の変容: P3a・P3bの振る舞いから【シンボリズム:ERPによる情報処理研究の最前線】。第24回日本脳電磁図・ポグラフィ研究会。

吉地望・栗田健一・吉田昌幸・吉井哲・山本堅一・宮崎義久・西部忠。(2007). 地域通貨流通網と地理的制約について:苫前町地域通貨実験を事例として。進化経済学会第11回大会。

木村元洋・片山順一・室橋春光。(2007). 課題難易度が視覚逸脱事象の処理に及ぼす影響。第25回日本生理心理学年会。

木村元洋・片山順一・室橋春光。(2007). 「事象関連脳電位を用いた視覚変化検出メカニズムの解明シンポジウム2「視覚脳波・脳磁場研究の新展開」。日本视觉学会2007年夏季大会。

木村元洋・片山順一・室橋春光。(2007). 課題難易度が視覚逸脱事象の処理に及ぼす影響。第25回日本生理心理学年会。

木村元洋・片山順一・室橋春光。(2007). 課題非連関周辺刺激の輝度変化による視覚ディストラクション:行動指標および事象関連脳電位を用いた検討。日本心理学会第71回大会。

小林大州介。(2008). 商品研究における人工物進化概念の適用。第2回進化経済学会北海道・東北部会。

小林大州介。(2008). 商品研究における人工物進化概念の適用。第12回進化経済学会大会。

小室匠・河口朋広・亀塙達也。(2007). 遅延リスクに対する人々の選好と時間割引の関連性。人間行動進化研究会第9回研究発表会。

西部忠。(2008). 進化経済学テキストブック。進化経済学会第12回大会。

前田洋枝・広瀬幸雄・杉浦淳吉・大沼進。(2007). 市民は参加を通じてエンパワーメントを獲得できたのか?ドイツBavariaにおけるPlanungszelle事例調査ー。日本社会心理学会第48回大会。

真島理惠・高橋伸幸。(2007). 多人数間の助け合いにおける選別的利他行動の検討:強制的フレーバーダイアムを用いた実験研究。日本グループ・ダイナミクス学会第54回大会。

真島理恵・高橋伸幸。(2007). 一般交換状況における選別的利他行動の検討:強制的フレーバーダイアム・選択的フレーバーダイアム間の比較。日本社会心理学会第48回大会。

真島理恵・高橋伸幸。(2007). 一般交換における選別的利他行動の実証的検討:強制的フレーバーダイアム・選択的フレーバーダイアムを用いた比較。北海道心理学会第54回大会。

三船恒悟・山岸俊男。(2007). 独裁者ゲームにおける内集団への利他行動。第11回実験社会科学コンファレンス。

三船恒悟・山岸俊男。(2007). 最小条件集団における内集団ひきの性差の検討。人間行動進化研究会第9回研究発表会。

三船恒悟・山岸俊男。(2007). 協力行動における集団成長性の共有効果 最小条件集団を用いた日乳比較実験。日本グループ・ダイナミクス学会第54回大会。

三船恒悟・山岸俊男。(2007). 集団成長性の共有性が自集団への協力行動に与える影響 日本・ニュージーランド比較実験。北海道心理学会第54回大会。

三輪智子・仲真紀子。(2007). 幼児による出来事の語り 一日常的ルーチン、ポジティブな出来事、ネガティブな出来事。日本心理学会第71回大会。

三輪智子・仲真紀子。(2007). 子どもによる感情的な出来事の語り 日常のルーチン、ポジティブな出来事、ネガティブな出来事。日本心理学会第71回大会。

三輪智子・仲真紀子。(2008). 幼児による出来事の語り 一日常的ルーチン、ポジティブな出来事、ネガティブな出来事 一。日本発達心理学年会第19回大会。

守谷大樹・河西哲子・室橋春光。(2007). 感情状態による視覚処理への影響:刺激競合事象における検討。第25回日本生理心理学年会。

村田明日香・片山順一。(2007). Task-switchingが行動モニタリング機能に与える影響。第25回日本生理心理学年会、室橋春光。(2007). 発達障害における生物学的基礎と社会環境。Paper presented at the JST社会技術研究開発センター「脳科学と社会」研究開発領域 第3回「脳神経科学と倫理」ワークショップ 赤ちゃんの脳、子どもの脳・科学と育ちと学びの倫理一。

仲真紀子。(2007). 幼児による人物記述:記述項目と記述内容。日本発達心理学年会第18回大会。

仲真紀子。(2007). 目撃証言研究の新しい展開(3)。日本心理学会第71回大会。

仲真紀子。(2007). 自伝的記憶の理論と方法(5)。日本心理学会第71回大会。

仲真紀子。(2007). 心と発話・動作の間:質的データの検討。日本心理学会第71回大会。

仲真紀子。(2007). 子どものへのインタビュー・観察をめぐる問題:家庭裁判所調査官の仕事と発達研究の視点 法と心理学会第8回大会。

仲真紀子。(2007). 裁判員を分析する! 法と心理学会第8回大会。

仲真紀子。(2007). 出来事を語るためにの語彙:幼児による人物記述:記述項目と記述内容一。日本心理学会第71回大会。

西部忠。(2007). 地域通貨の流通ネットワーク分析と制度設計。第3回ネットワーク生態学シンポジウム(主催:情報処理学会)。

西部忠。(2007). 地域創造性と地域ソング。進化経済学会第12回大会オーディン・コンフレンス。

西部忠。(2008). 地域通貨の流通ネットワークについて。日本ソフトウェア学会「ネットワークが創発する可能研究会(JSSST SIG-EIN)」。

西部忠・小林重人・栗田健一・橋本敬子。(2008). 寶く意志(1)? 地域通貨関係者が金融関係者。発進学会第12回大会。

大沼進。(2007). ライフスタイルから見る環境配慮行動・消費購買行動の類型化による人ひとの特徴一。北海道大・豊

2007年度の業績一覧

- 大学院工学研究科循環資源評価学(タクマ)講座閉講式。
- 大沼進・広瀬幸雄・野波寛・杉浦淳吉。(2007). 政策受容に及ぼす公正感の効果:EUにおける熟議型社会的決定の事例調査。日本社会心理学会第48回大会。
- 大沼進・角田芳忠・松廉敏彦・加賀谷文江。(2007). ライフスタイルから見る環境配慮行動:消費購買行動の類型化による人の特徴。第18回廃棄物学会研究発表会発表論文集。
- 大沼進・須藤泰史。(2007). 地域活動への参加がエンパワーメントへ及ぼす効果:札幌市豊平区陵陽中学校の活動事例。日本心理学会第71回大会。
- 大沼進・清家涼央。(2007). 産業廃棄物不法投棄ゲームを用いた社会的ジレンマ研究:監視・罰則の非協力行動促進効果。日本シミュレーション&ゲーミング学会全国大会2007年秋号。
- 大瀬幸則・瀧川哲夫。(2007). ステレオタイプ測定方法としてのコンジョイント分析の有効性の実験的検討。日本心理学会第71回大会。
- 大瀬幸則・瀧川哲夫。(2007). ステレオタイプ測定方法としてのコンジョイント分析の有効性の検討。北海道心理学会第54回大会。
- 齊藤寿倫・橋本謙・河口朋広・亀田達也。(2007). 他者の存在が恐怖感情に及ぼす影響の生理的考察。日本社会心理学会第48回大会。
- 齊藤貴之。(2007). 鉄冶職カーストの下位区分名称と内部構造—インド、西ベンガル州、ビシュヌプル市のカルマカルを事例として—。日本文化人類学会第41回研究大会。
- 佐藤剛介・結城雅樹。(2007). 高自尊心者は幸せか?—社会構造変数の調整効果の検討。北海道心理学会第54回大会。
- 佐藤剛介・結城雅樹。(2007). 関係流動性が自尊心の効果に与える影響(1)—地域間比較アプローチによる検討。日本社会心理学会第48回大会。
- 澤木梨沙・片山順一。(2007). 刺激文脈により変容する逸脱情説処理:P3aによる非標的位置効果の検討。第25回日本生理心理学会。
- Joanna Schug・結城雅樹。(2007). 社会構造と自己開示:関係流動性の違いに着目して。日本社会心理学会第48回大会。
- 品田瑞穂・山岸俊男。(2007). 集団差別意図が非当事者による報復に及ぼす影響。日本社会心理学会第48回大会。
- 白石紘章。(2007). 自経言研究の新しい展開(3)。日本心理学会第71回大会。
- 白石紘章・仲真紀子。(2007). 認知面接技法と被面接者の性格特性の関係。日本心理学会第71回大会。
- 白石紘章・仲真紀子。(2007). 認知面接技法は被面接者の性格、及び自己効力感に影響を及ぼすのか?:報告と誇導情報の情報源再認を指標として。法と心理学会第8回大会。
- 高岸治人・犬飼佳吾。(2007). 規範逸脱者への罰は自分の報酬か?。日本社会心理学会第48回大会。
- 高岸治人・犬飼佳吾。(2007). 規範逸脱者への罰は報酬か?。北海道心理学会第54回大会。
- 高岸治人・犬飼佳吾。(2007). 規範逸脱者に対する罰の動機分析:プロスペクト理論を用いた効用測定法の開発。人間行動進化学会研究会第9回研究発表会。
- 高岸治人・高橋伸幸。(2007). 第三者による不公正は正行動における意図の効果。日本グループ・ダイナミックス学会第54回大会。
- 高橋正子・藤井義博。(2007). BMIといいさを評価する因子との関連について。第54回日本栄養改善学会。
- 高橋正子・戸由美。(2007). 大学生の食生活の現状と課題。第14回日本未病システム学会。
- 高橋正子・瀧川哲夫。(2007). 日常生活における食物選択要因の検討。第54回北海道心理学会。
- 高橋伸幸。(2007). 一般交換の理論的・心理的基盤:社会シミュレーションの可能性。
- 高橋伸幸。(2007). 一般交換実験。「実験社会科学・実験が切り開く21世紀の社会科学」2007サマースクール。
- 高橋泰城。(2007). 進化神経経済学・行動計量学会。
- 高橋泰城。(2007). 時間選好・危険回避・薬物依存の神経経済学。浜松医科大学・喫煙科学研究会。
- 高橋泰城。(2007). 神経経済学・大阪大学・ブレイインコミュニケーション研究会。
- 高橋泰城。(2007). 感情と意思決定の神経経済学。日本心理学会ワーキング。
- 高橋泰城。(2007). 時間割引・不確実性下の意思決定の行動神経経済学・行動経済学会大会。
- 高橋仁奈。(2007). 準用語取引に与える利他性・信頼の効果:中部ジャフ農村における実験結果より。2007年度日本農業経済学会。
- 竹村幸祐・結城雅樹・William W. Maddux・大坪庸介。(2007). 集団主義の「タイプ」に見る日米差:記憶課題実験による検討。日本社会心理学会第48回大会。
- 瀧川真也・鷲野元一・仲真紀子。(2007). 「懐かしさ」が自伝的記憶の想起に及ぼす影響—懐かしい音楽を用いて—。日本心理学会第71回大会。
- 谷田林士・山岸俊男。(2007). 囚人のジレンマにおける協力者と非協力者の意思決定プロセス:利得マトリックスへの注視の時系列分析。日本社会心理学会第48回大会。
- 谷田林士・山岸俊男。(2007). 協力者と非協力者の意思決定プロセス:アイ・トラッカーを用いた囚人のジレンマ研究。北海道心理学会第54回大会。
- 土田幸男・片山順一・室橋春光。(2007). ワーキングメモリ容量の個人差と視覚3刺激オドボール課題におけるP3成分の関係。ヒューマン情報処理研究会。
- 土田幸男・片山順一・室橋春光。(2007). ワーキングメモリ容量の個人差と視覚3刺激オドボール課題におけるP3成分の関係。ヒューマン情報処理(HIP)研究会。
- 土田幸男・室橋春光。(2007). ワーキングメモリ容量の個人差とAX-CPT遂行時のERPの関係。第25回日本生理心理学会。
- 土田幸男・室橋春光。(2008). ワーキングメモリ容量および短期記憶容量と自閉症スペクトラム指數得点の関係。第5回日本ワーキングメモリ学会。
- 荒森英史・室橋春光。(2007). 読み書き困難者の運動系列自動化過程の検討。第4回子ども学会議。
- 上宮愛・仲真紀子。(2007). 小学生による嘘の判断。日本心理学会第71回大会。
- 山岸俊男。(2007). 認知科学にとっての「制度」の意味。日本認知科学会第24回大会。
- 山崎圭子・片山順一。(2007). 心的イメージの生成順序に関わる脳活動の時間的側面からの検討。第25回日本生理心理学会。
- 山崎圭子・片山順一。(2007). 心的イメージの生成が事象関連脳電位に及ぼす影響:イメージの生成量に関する時間的検討。日本心理学会第71回大会。
- 山崎優子・中川博之・坂口唯彦・綱森史泰・広川雅之。(2007). よりよい裁判員制度の実現を目指す札幌での取り組み。法と心理学会第8回大会。
- 横田晋大・結城雅樹。(2007). 集団表象と外集団脳威感:実在集団を対象とした検討。日本社会心理学会第48回大会。
- 横田晋大・結城雅樹。(2007). 集団認知と外集団脳威感・感情との質的対応関係に関する研究 一実在集団を用いた検討。人間行動進化研究会第9回研究発表会。
- 横田晋大・結城雅樹。(2007). 集団認知と他集団脳威感・感情との質的対応関係に関する実験研究。北海道心理学会第54回大会。
- 依藤佳世・安藤香織・大沼進・杉浦淳吉・薄井純子。(2007). 子どものごみ減量行動における個人的規範の規定因。日本社会心理学会第48回大会。
- 吉田昌幸。(2007). 企業家活動論における企業・進化経済学会第1回北海道・東北部会。
- 吉井哲。(2007). 再生産体系における確率論的調整過程モデル:長期分析から進化経済学に向けて。進化経済学会第11回大会。
- 吉井哲。(2007). 「長期的定常状態」概念再考。進化経済学会第1回北海道・東北部会。
- 吉井哲。(2007). スラップシステムと需要。経済史学会第16回北海道部会。
- 吉村洋毅・塙坪いく子・仲真紀子。(2007). DRM/ハライムによる虚偽記憶に及ぼす処理水準の影響。法と心理学会第8回大会。
- 結城雅樹・佐藤剛介。(2007). 関係流動性が自尊心の効果に与える影響(2)一プライミング法による検討。日本社会心理学会第48回大会。

Center for Experimental Research in Social Sciences Working Paper Series

- No. 52 協力行動における集団成員性の共有効果:最小条件集団を用いた日乳比較実験 三船恒裕・山岸俊男
- No. 53 Culture and Visual Perception: Does Perceptual Inference Depend on Culture? KEIKO ISHII, TAKAFUMI TSUKASAKI, and SHINOBU KITAYAMA
- No. 54 Bringing Back Leviathan into Social Dilemmas MIZUHO SHINADA and TOSHIO YAMAGISHI
- No. 55 二次の協力行動としての第三者による罰行動 品田瑞穂・山岸俊男
- No. 56 インターネットコミュニティの構造と受容感の知覚:電子掲示板への評価を用いた探索的研究 品田瑞穂・谷田林士・山岸俊男・佐野恵理
- No. 57 Does Shared Group Membership Promote Altruism? Fear, Greed and Reputation TOSHIO YAMAGISHI and NOBUHIRO MIFUNE
- No. 58 文化特定的行動の説明としての選好とデフォルト戦略—独自性と同調性への選好の場合 山岸俊男・橋本博文・鈴木直人
- No. 59 最後通告ゲームでの意図のない不公平分配の拒否 堀田結孝・山岸俊男
- No. 60 互換性と同一性保護—最後通告ゲームにおける拒否の理由—堀田結孝・山岸俊男
- No. 61 An Institutional Approach to Culture TOSHIO YAMAGISHI and NAOTO SUZUKI
- No. 62 日本人の折衷的判断における社会的文脈の効果 鈴木直人・高橋知里・山岸俊男
- No. 63 信頼行動の集団バイアス—最小条件集団を用いた分配者選択実験 鈴木直人・金野祐介・山岸俊男
- No. 64 村八分社会における自己呈示:相互協調性の適応基盤に関する研究 鈴木直人・高橋知里・山岸俊男
- No. 65 集団内協力と集団内信頼:一般交換システムの自己維持メカニズム 山岸俊男・清成透子
- No. 66 直接交換と間接交換が内集団信頼行動に及ぼす影響 清成透子・マーガレット・フォディー・山岸俊男
- No. 67 Allocation of Attention by Cooperators and Defectors to the Prisoner's Dilemma Payoff Matrix TOSHIO YAMAGISHI and SHIGEHITO TANIDA
- No. 68 国籍カテゴリーを用いた「閉ざされた一般的互換性仮説」の検証 三船恒裕・牧村洋介・山岸俊男
- No. 69 独裁者ゲームおよび最後通告ゲームにおける状況の認知 橋本博文・山岸俊男
- No. 70 集団を基盤とした互換性の適応基盤 堀田結孝・山岸俊男
- No. 71 The role of intentions in third-party punishment (in Japanese) HARUTO TAKAGISHI, NOBUYUKI TAKAHASHI, and TOSHIO YAMAGISHI
- No. 72 Comparison of the role of intentions in second-party and third-party punishment (in Japanese) HARUTO TAKAGISHI and TOSHIO YAMAGISHI
- No. 73 The intercultural trust paradigm: Studying joint cultural interaction and social exchange in real time over the internet CHISATO TAKAHASHI, TOSHIO YAMAGISHI, JAMES H. LIU, FEIXUE WANG, YICHENG LIN, and SZIHSIEN YU
- No. 74 Cultural psychology and the mere exposure effect (in Japanese) KEIKO ISHII
- No. 75 Development of a Scale to Measure Perceptions of Relational Mobility in Society MASAKI YUKI, JOANNA SCHUG, HIROKI HORIKAWA, KOSUKE TAKEMURA, KOSUKE SATO, KUNIHIRO YOKOTA, and KENGO KAMAYA
- No. 76 A Defense of Deception on Scientific Grounds TOSHIO YAMAGISHI and KAREN S. COOK

お知らせ

2008年6月11日～13日、北海道大学にて、カリフォルニア大学サンタバーバラ校(UCSB)進化心理学センターとの共催の国際シンポジウムを開催する予定です。その内容につきましては、次号のニュースレターで紹介いたします。

グローバルCOE

心の社会性に関する教育研究拠点

The Center for the Sociability of Mind



〒060-0810

札幌市北区北10条西7丁目

北海道大学大学院文学研究科行動システム科学講座

TEL 011-706-3057

E-mail gcoe-csm@lynx.let.hokudai.ac.jp

Homepage <http://lynx.let.hokudai.ac.jp/CSM/>